

『風は南から』

令和7年度 校長室便り
(9月8日)(第12号)



「汝の立つところ深く掘れ、そこに必ず泉あり」フリードリヒ・ニーチェ

2学期がスタートしました。1学期に体育祭・文化祭等の大きな学校行事も終わりましたので、2学期は落ち着いて自分の将来についてじっくり考える学期にしてほしいと思います。

私は始業式で「沖高の存在意義とは何か」について、「沖永良部島から沖高がなくなってしまった時の経済損失」という観点から話をしました。「消費の減少」「雇用の損失」「賃貸収入の減少」「高校生と保護者の島外への流出」「若い世代の定住人口の減少」「地域コミュニティの衰退」等が考えられ、このまま生徒数が減少し続け沖高がなくなってしまおうと、島が一気に衰退することが想像できます。沖高の存在意義は、「将来の沖永良部島に貢献できる人材の育成」にあるわけですが、プラス「在学中の高校生による島への貢献」も含まれていると考えています。皆さんが、小中学校の行事や町の行事等に、個人や部活動単位でボランティアとして参加しイベントを盛り上げてくれていることには感謝します。それに加えてこれからは、島の課題を見つけその問題解決に取り組み、高校生レベルで何か提言ができることも島の発展につながり、沖高の存在意義が再評価されるのではないかと私は考えます。

ニーチェは、「汝の立つところ深く掘れ、そこに必ず泉あり」と言いました。「自分の立つ足下を掘る」ということは、自分の身近にあるものに価値を見だし、その価値を信じて生かすことです。まさに、地域を知りその良さや課題を発見して、解決に向けて深く考えることもその1つです。2学期は、自分の足下も深く掘り下げてみましょう。

大学等出前授業



9月5日(金)午後より「大学等出前授業」を行いました。北は岐阜大学から南は沖縄大学・名城大学まで9名の先生方をお招きして、大学と同じ90分間の講義を実施していただきました。「高校生でもできる町作り」「発酵食品とは?」「サイコロと母関数」「経済学とは?」「文化の観光商品とは?」等テーマも多彩で興味深く、受講して学部学科を選択する参考になったのではないのでしょうか。これを機にさらに調べてみてください。

和泊町 戦後80年ミニ企画展



戦後80年に合わせて和泊町役場内入り口で行われているミニ企画展を見てきました。当時実際に身に付けていた軍服や防空頭巾、帰還を願って女性が縫った「千人針」等貴重な資料が展示してありました。米軍がばらまいた「時は迫れり!」と日本語で書かれたチラシもありました。当時保管していると処罰されたそうです。ジャーナリストの池上彰さんは、平和を維持するためには「記録」よりも「記憶」が大事だと言っていました。私も実際遺品を見て、当時の人々の思いが伝わってきました。

卒業生による進路相談会



8月28日(木)後期夏季課外の最終日に、15時半から1時間程度の「卒業生による進路相談会」を実施しました。卒業生から学校に挨拶に来たという連絡を受け、折角なら生徒の前で話をする機会にできないかと進路指導部に相談したところ、早速実施する運びとなりました。

結局5名の卒業生が突然の依頼を快く引き受けて来校し、後輩に向けて近況や昨年の夏休みの過ごし方等について話をしてくれました。その後グループに分かれて質疑応答。意識の高い1・2年生も参加し、教科の勉強方法や進路を決めた経緯等について盛んに質問していました。

「夏休みをうまく過ごせなくても大丈夫。最後まで諦めないで取り組むことの方が大事ですよ」という先輩の言葉に、3年生も元気をもらったようでした。モチベーションを上げて2学期を迎えられそうです。卒業生の皆さんありがとうございました。

第1回島ムニまつり



8月30日(土)14時から下平川小学校で行われた「第1回島ムニまつり」を見学に行きました。下平川小学校は国立国語研究所と連携され、子どもたちへの島ムニの継承に力を入れておられます。先日も依頼があり、4名の沖高生が「島ムニLINEスタンプ」の製作会に参加し、小学生のサポートをしてきました。オープニングでは、エイサー一部が伝統芸能の「余多うちばる」とその他2曲を披露し会場を盛り上げてくれました。その後島ムニのフルツバスケットや島唄の演奏等が続きました。私が特に驚いたのが、小学生が島ムニで普通に話していることでした。言葉は文化です。努力して継承していくことが本当に大切だと改めて感じました。この島ムニまつりも続くそうです。

生徒会役員任命式



9月1日(月)始業式の前に、新生徒会役員任命式を行いました。まずは旧生徒会の田中会長からお礼の挨拶、そして新生徒会役員の紹介並びに新生徒会を代表して村上会長から所信表明がありました。旧役員の皆さんは、これまで学校行事を中心に積極的に活動し、学校を盛り上げてくれました。新役員の皆さんもその意志を引き継ぎ、さらに発展させてください。また、他の皆さんも「自分事として」捉え、活動を支えてください。